

AI映像 著作権ガイドライン

- ✓ 商用利用可のAIサービスを使用
- ✓ 著作権・肖像権違反のプロンプトは使用しません

SUSUMU INC.

TEL 03-6260-9754
info@susumu-ai.com
<https://susumu-ai.com>



AI映像制作において、クリアにすべき「実務上の」課題



類似性 (Similarity)

「既存のIPやキャラクターに
意図せず似てしまわないか？」

This addresses the risk of accidental
infringement through visual resemblance.



依拠性の否定 (Proving Non-reliance)

「万一、権利を問われた際に
『参考にしていない』と証明できるか？」

This addresses the need for a defensible,
auditable trail to prove originality.

プロセスの透明性を担保する、SUSUMUの『トレーサビリティ』



トレーサビリティ

(Traceability: 制作過程の追跡可能性)

1. プロンプトのログ管理

(Prompt & Generation Log Management)

生成AIへの指示(プロンプト)や、生成された結果、採用に至るまでの思考プロセスを含む、制作過程の全データを記録・保存します。

2. 生成プロセスの開示

(Disclosure of Generation Process)

万が一の際には、これらのログを「特定の著作物を依拠していない」ことの証明として提示可能です。

3. 人の目による類似性チェック

(Human-in-the-Loop Similarity Checks)

生成された映像は、必ず複数の人間の目で多角的にチェック。公知の著作物との類似性をスクリーニングし、リスクを未然に防ぎます。

攻めのAI活用と、守りの情報管理

扱う情報

(Information We Handle)

未来を描くために、AIが扱うべき情報

- 企業の未来ビジョン
- まだ世にない製品・サービスの構想
- 言語化しきれないブランドの世界観

扱わない情報

(Information We Don't Handle)

権利を保護するために、AIに与えない情報

- 個人が特定できる情報（肖像など）
- 法的保護下にある他社のIP
- 非公開の機密情報